

創立 1888年(明治21年)

あなたの **夢** が未来を創る。

平成19年5月

社団法人 **電気学会**

The Institute of Electrical Engineers of Japan

中長期ビジョン策定の目的

ITの発展による国際化の進展や国公立大学法人化を始め、学界、産業界を問わずグローバルスケールで競争時代に突入する中、社会、経済、教育、研究、技術開発など電気学会を取り巻く活動環境が大きく変化しています。

こうした中、電気学会が今後も持続的に発展していくためには、学会が何を目指し、そのために何をしていくのか、中長期的なビジョンを明らかにすることが必要です。

したがって、今回、学会のあるべき姿(グランドデザイン)、この目指すべき学会像を実現するための基本政策(マスタープラン)を策定しました。

電気学会の果たす基本使命

電気のことなら、電気学会へ

電気学会では、これまでも、そして今後も、時代の変遷や進展にあわせ、公正、中立的な立場から、「未来」と「会員」へ貢献していきます。

未来へ

社会が求める電気学術全般に関する研究の進歩とその成果の利用普及を図り、電気学術の発展と文化の向上に寄与します。

会員へ

会員ニーズに応え、電気学術全般に関する知の発見、交換、体系化、蓄積および適切な発信を実現する快適な場を提供します。

目指すべき電気学会像

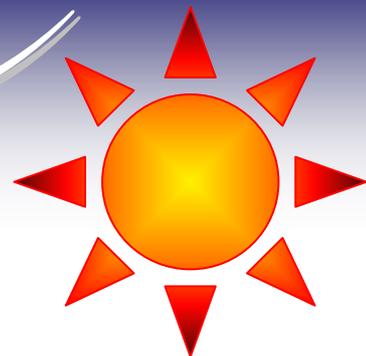
あなたの「夢」が原動力です

あなたの「夢」をサポートします！

電気学会は、会員が自ら切磋琢磨し、相互に認め協力し、技術力を高めることができる快適な場となり、会員および社会からの声に応え、電気技術を通じた「しあわせな未来」への一翼を担います。

グラントデザイン

～ 電気学会のあるべき姿 ～



8つの目指すべき方向性を示し、
柔軟な発想と強い意志を持って挑戦します。

学会プレゼンスの向上

電気学術の権威として、電気技術の魅力を広く一般にご理解いただけるよう積極的に活動し、電気関係学協会のコアとなることを目指す。

会員メリットの向上

学会活動の更なる活性化に務め、会員の多様なニーズに迅速・的確に応えるようサービス内容を充実し、様々な「見える価値」を提供する。

学術の創出と支援

産学官の有機的な連携のもと、新たな研究領域やビジネスモデル等の創出を支援し、高度な調査研究成果等をタイムリーに発信する。

科学技術を担う人材の 創出・育成・活躍の促進

電気技術の継承と将来を担う次世代電気技術者の創出・育成に務め、活躍の場を提供することにより、電気技術者の資質と地位の向上を図る。

科学技術政策への積極的関与

科学技術の振興や技術立国への支援として、政府への提言や社会が求める情報を積極的に発信する。

国内外標準規格開発への参画

JEC規格の知見を活かし、国内外標準規格の開発へ積極的に参画する。

国際活動の積極的推進

国際会議の開催、運営および支援や英文誌の充実等、国際活動を強化し、国際的評価の向上を図る。

組織運営基盤の増強

運営基盤となる組織の効率化と経営資源を戦略的に集中・再配分するとともにインフラ機能の強化を図り、持続的な成長を図る。

マスタープラン 7つの「基本政策」

1 戦略的活動の推進

- (1) イノベーションの促進や分野の壁を越えた部門間連携を強め、新規分野の構築や取込みを視野に入れた活動範囲の拡大を図る。
- (2) 戦略的活動を実現するため、学会本部が司令塔としての機能の充実および強化を図る。

2 社会のニーズに対応した情報発信

- (1) 広聴活動等より社会ニーズを捉え、各種メディアを活用した一般広報の充実化を図り、電気技術の魅力を伝える。
- (2) 電気に関する基礎技術から先端技術までを分かり易く親しみ易い形で情報提供する。
- (3) 電気技術の普及発展を通じた安全・安心な社会の実現のため、電気技術に関する標準規格の開発を推進する。

3 国際化に向けた体制の強化

- (1) 英文電子ジャーナル化の推進により、世界へ向けて情報発信する体制を構築する。
- (2) 国際会議の開催や国際的研究会活動が容易にできる仕組みを構築する。
- (3) 技術立国として国際標準規格の開発を推進するため、人的・金銭的支援を強化する。

4 将来を担う人材育成の強化

- (1) 会員・非会員、男女を問わず学会活動へ参加し易い環境を整備する。
- (2) 優秀な電気技術者層を厚く育むため、教育支援環境を整備する。
- (3) 若手会員との情報交換を活性化し、活躍の場を整備する。

5 学術的・人的資産の有効活用

- (1) 電気学会会員の枠にとらわれず、広く他学協会と協調して、研究調査活動を実施する。
- (2) 電気学会フェロー、IEEJ プロフェッショナルが多種多方面で活躍できるよう、積極的な支援を行う。
- (3) 各種学術資産(会誌、論文誌、全国大会・部門大会・研究会資料、技術報告書、教科書、専門書など)を蓄積し、高い利便性を確保する。

6 快適かつ効率的な手段や場の提供

- (1) ITを活用し、蓄積された学術資産や各種情報を自由に収集・提供できる機能を構築する。
- (2) わかり易く利便性の高い仕組みを整備するとともに、活動し易く親しみやすい場を提供し、会員相互の情報交換を活性化する。

7 健全な組織運営基盤の再構築

- (1) 自主的な活動と様々な選択を許容する柔軟性を備えた新たな組織体制を導入する。
- (2) 学会運営に必要な集中すべき機能と分散すべき機能を見極め、財務基盤整備も含めた抜本的見直しを実施する。
- (3) 本部、支部、部門の密接な連携と明確な役割分担を行い、真の総合力が発揮できる仕組みを整備する。
- (4) 職員が能力を十分に発揮し得る組織・体制・環境の整備に取り組む。